

平成31年度 自己評価計画書

石川県立ろう学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 書く力の向上	①自分の考えや思いを、適切な文章で表現する力を養う。	○教務課 小中高等部 寄宿舍	日本語を正しく書く力が求められている。	【努力指標】 日記や日々の授業などで自分の考えや意見等を書く場面を設定し、個に応じた指導を行う。	個に応じた目標を設定し、指導できた。 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	7月及び1月に調査 教員
2 授業改善の取り組み	②幼児児童生徒が主体的に学ぶために、見てわかる・確実に伝わる内容となるように授業改善に取り組む。	○研修課 幼小中高等部	研修や研究授業は行っているが、課題を共有し各自の授業に活かすことが求められている。	【成果指標】 研修や研究授業を通して、授業改善を行った。	研修や研究授業のあと、自分の授業改善に活かすことができたと感じる教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	7月及び1月に調査 教員
				【満足度指標】 学校の授業について、幼児児童生徒は満足している。	授業に満足している幼児児童生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	7月及び1月に調査 児童生徒 保護者
3 防災教育の充実	③防災教育	○指導課 幼小中高等部 寄宿舍	「自分の命は自分で守る」という意識を高める必要がある。	【努力指標】 幼児児童生徒1人ひとりの防災に関する知識が深まり、防災への意識が高まった。	災害について関心がたかまった幼児児童生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	7月及び1月に調査 教員 幼児児童生徒
	④地震などの災害が発生したときの過ごし方について学ぶ	○防災委員会 幼小中高等部 寄宿舍	長期避難を想定した教職員の組織的な動きが求められている。	【成果指標】 災害発生時の仮想体験を通して、教職員は組織的な動きが理解出来た。	仮想体験で、自分の役割を果たすことが出来たと感じた教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	1月に調査 教員
	⑤災害備品についての知識	○保体課 幼小中高等部 寄宿舍	学校にある災害備品を知り、避難所の拠点としての備品について考える必要がある。	【努力指標】 災害備蓄品及びその保管場所や活用方法を理解した。	災害備蓄品や活用方法についての理解が深まった教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	7月及び1月に調査 教員
4 効率的な働き方	⑥職場環境の改善	○総務	業務改善のために、各部各課の職場環境を整理整頓することが求められる。	【努力指標】 業務の効率化を図るために各自が整理整頓を行った。	職場環境を改善することが出来たと感じた教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	7月及び1月に調査 教員